

## 第204回（令和3年11月28日施行）

### 基礎簿記会計

#### 第1問〈帳簿記入についての出題〉

帳簿記入に関する基礎的な知識を文章の正誤判断により問うている。

1. 現在学んでいる記録方法としての簿記の特徴を確認している。
2. 帳簿に記入した際の誤記を訂正する手続きについて確認している。
3. 帳簿に記入する単線と複線の意義を確認している。
4. 記帳対象となる簿記上の取引についての理解を確認している。

#### 第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. は、南北商店連合会の事務所で発生した電気料金を現金で支払った取引である。水道光熱費（費用）の発生と、現金（資産）によって支払った際の記帳を問うている。

2. は、南北商店連合会の会員から会費を集金した取引である。会費収入（収益）の発生と、現金（資産）によって集金した際の記帳を問うている。

3. は、南北商店連合会の銀行預金（普通預金）に現金を入金した取引である。現金（資産）の預け入れによって、普通預金（資産）が変動した際の記帳を問うている。

4. は、商品売買業者（花き販売業）が商品運搬用の小型自動車を購入した取引である。車両運搬具（資産）の購入と、現金（資産）によって支払った際の記帳を問うている。

5. は、商品売買業者（花き販売業）が商品を代金後払いで購入した取引である。商品（資産）の購入と、掛取引によって買掛金（負債）が変動した際の記帳を問うている。

6. は、商品売買業者（花き販売業）が商品を販売した取引である。商品（資産）を引き渡して、その代金を現金（資産）で受け取り、商品販売益（収益）を獲得した際の記帳を問うている。

7. は、商品売買業者（花き販売業）が代金後払いで販売した商品の代金（売掛金）を、銀行振込によって回収した取引である。売掛金（資産）の回収によって普通預金（資産）が変動した際の記帳を問うている。

8. は、商品売買業者（花き販売業）が借入金を返済した取引である。返済した借入金（負債）と、その借入れで発生した支払利息（費用）、および返済と利息支払いに充てた現金（現金）の変動にかかる記帳を問うている。

### 第3問<会計の構造に関する出題>

本問は、貸借対照表と損益計算書それぞれの構成要素の金額関係と、貸借対照表と損益計算書の関係を問う出題である。

企業の経済活動は、期首の貸借対照表を出発点として始まり、期中の様々な利益を獲得するための経済活動を経た結果、期末の貸借対照表のような財政状態となる。この貸借対照表では、それぞれの時点（期首および期末）で①「資産＝負債＋純資産（資本）」という等式が成り立つ。

そして、期中の様々な利益を獲得するための経済活動の成果（経営成績）を表すのが損益計算書である。ここでは②「収益－費用＝当期純利益」の算式で利益が計算される。ここで計算された利益は期末純資産（資本）に反映される。つまり、資本の追加出資や引き出しがないことを前提として③「期首純資産（資本）＋当期純利益＝期末純資産（資本）」という算式になる。

これらの関係を理解しているかを金額の穴埋め形式で出題した。

### 第4問<日記帳から元帳への転記に関する出題>

帳簿の基本的な形は、日々の取引を記録する日記帳と、管理すべき単位（勘定）の記入簿（元帳）の2つである。

本問では、マンション管理組合のような非営利組織における現金取引（現金収入と現金支出）の現金出納帳への記帳と、その現金出納帳から元帳への転記という一連の手続きを問っている。そして現金出納帳は残高式、元帳は勘定式で出題した。それぞれ、金額等の記入が正しくできるかを試している。

### 第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期間損益計算を行う営利企業を対象とする会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から貸借対照表と損益計算書を作成できるかを問っている。解答用紙に勘定科目をあらかじめ示してあるので、作成に際しては、金額を誤らないように記入し、当期純損益を算出するという手順が理解できているかを試している。